

国際交流基金日本語国際センター25周年記念シンポジウム

課題遂行を出発点とした言語学習デザイン
 『まるごと 日本のことばと文化』の挑戦

セッション2

海外のJF日本語講座における『まるごと』の実践

1

セッション2

海外の日本語講座における『まるごと』の実践

- 『まるごと』『かつどう』だけを使った入門・初級コースの実践
 カルメンシータ・ケオラニ・C・ビスカラ
 (国際交流基金マニラ日本文化センター)
- 教室の内と外をつなぐタスクシートの試み
 西山恵子
 (国際交流基金シドニー日本文化センター)

2

日本語講座を開設しているJF海外拠点

全31拠点

3

JF海外拠点の日本語講座の目的と種類

目的	種類
JFSの考え方に基づく日本語教育の普及・定着	一般日本語講座 文化日本語講座
学習者の日本文化への関心・理解の深化	
学習者の裾野拡大	

4

日本語講座の特徴

- JFSに基づく、“Can-do”記述による学習目標設定と評価
- 原則として、A1からC2まで、全コースを設定
- 原則として、JFS準拠教材『まるごと』の使用

5

日本語講座の役割

- 現地講師を中心にした講座運営への移行を促進
- 現地講師の育成
- モデルコースの公開

↓

- ▶現地講師による外部への情報発信
- ▶JFSの考え方を活かした日本語教育の広がり

6

セッション2**海外の日本語講座における『まるごと』の実践**

- 『まるごと』『かつどう』だけを使った入門・初級コースの実践

カルメンシータ・ケオラニ・C・ビスカラ
(国際交流基金マニラ日本文化センター)

- 教室の内と外をつなぐタスクシートの試み

西山恵子
(国際交流基金シドニー日本文化センター)

7